

スマートフォンを利用した ワイヤレスエレキパドルの制作

Building wireless ele-key paddle for smartphone

AC22108 矢野立樹

AC22108 Tatsuki YANO

芝浦工業大学 無線研究部

Shibaura Institute of Technology, Ham radio club

1. 動機

本研究の動機は主にアマチュア無線の移動運用の際、パドルは重く、ケーブルが長い持ち運びに向かないことから、普段持ち運ぶスマートフォン（以下スマホ）をパドルにできないかと考えたことである。

2. 目的

通常アマチュア無線で使用されるパドルは、本体に直接3.5mm、もしくは6.3mmプラグで接続するものが多く、運用の際にはどうしてもケーブルが長く、多くなってしまう。

また、CWを始めようとした際パドルは高価なものが多く、手が出しづらかった経験もある。

そこで本研究では、現代ではもはや生活必需品となったスマホにインストールできるパドルと、無線機を動作させるモジュールを制作し、手軽にCWができるようになる装置の制作を目指す。

3. 設計

パドルの構造としては左右両方のキー（レバー）を操作し、無線機から接続された+端子とGND端子が導通することで無線機に信号を送るというものである。

これらを踏まえ、設計はスマホからWi-Fiを経由して導通の動作を制御し、CWの送出行う方向性にした。

動作はまずスマホからの制御で3.3Vが抵抗に入力され、トランジスタのベース電流となる。これによりエミッタの無線機からの+5VとコレクタのGND端子が導通し、CW送出行われる、というものである。これを長点側と短点側で2系統用意する。

スマホと無線機側端末の接続、制御にはWi-Fiアクセスポイント機能を搭載し、Arduino IDEからプログラムの書き込み、4系統の定格3.3V出力を持ち単体で動作可能な小型のモジュールESP-01を選定した。

4. 製作

まずESP-01に各プログラムを書き込んだ(別資料1)。プログラムの設計にはWi-Fiの設定、接続したスマホ側アプリへのボタンの配置と自動生成、そのボタンとESP-01の動作の紐づけを一括したプログラムを自動生成できるフリーソフトRemoteXYを使用した。

動作の電源は単3型ニッケル水素電池3本から取り、無線機と端末間の接続には3.5mmケーブル、制御

にはhFE300程度、耐電圧40V程度のトランジスタ2N2222、抵抗は220Ωのものを使用した。

これらをブレッドボード上に配置したところESP-01からのノイズをトランジスタが拾ってしまい予期しない送出行われることが多かったため、トランジスタに5.1kΩ抵抗を挿入してデジタルトランジスタと同様の回路とし、ノイズをカットした。(別資料2)

これにより動作できるようになったため、これらの回路をユニバーサル基板上にまとめ、3Dプリンターでケースを作成して完成とした。

5. 結果

かさばる機器と長いケーブルを必要としないパドルとして使用可能な状態になった。

しかし結局ケーブルを使わなければならず、単3電池3本を使用することで重量が増え、またスマートフォンと端末の間で通信にラグが生じることがあった。

6. 考察

電源の重量の問題は小型電子機器用のリチウムイオンバッテリーを用いることで解決できる。

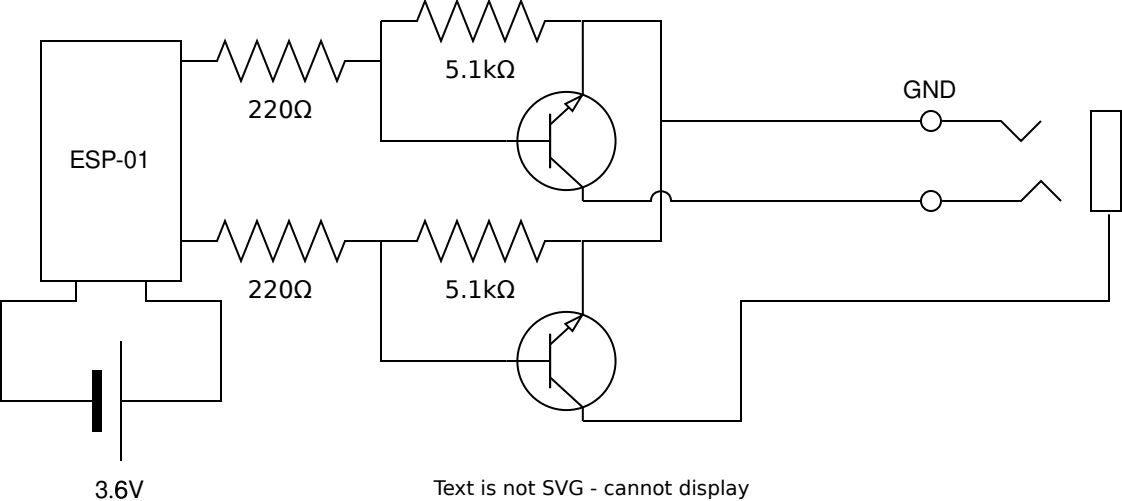
動作のラグはWi-Fiなどの無線接続においては必ずと言っていいほどついて回る課題であり、より高速通信が可能な規格を用いることで解決できる可能性がある。

7. まとめ・展望

パドルのスマートフォンによるワイヤレス化は手軽にCWに手を出せる一つ的手段として有効と考えられる。以降は本研究で解決しきれなかったラグ、電源の問題に加え、シリアル通信によるキーボードからの文字直接入力や縦振り電鍵モードの追加に挑戦したい。

8. 参考文献

CQ Ham Radio 2021年2月号, CQ出版社
ぶらり Web 走り書き, <https://burariweb.info/electronic-work/esp01-esp8266-how-to-use.html>(最終閲覧 2023/11/30)
基礎からのIoT入門, <https://iot.keicode.com/esp8266/esp-01-program.php>(最終閲覧 2023/12/02)



```
/*
-- New project --

This source code of graphical user interface
has been generated automatically by RemoteXY editor
To compile this code using RemoteXY library 3.1.11
or later version
download by link http://remotexy.com/en/library/
To connect using RemoteXY mobile app by link
http://remotexy.com/en/download/
- for ANDROID 4.11.4 or later version;
- for iOS 1.9.1 or later version;

This source code is free software; you can
redistribute it and/or
modify it under the terms of the GNU Lesser General
Public
License as published by the Free Software
Foundation; either
version 2.1 of the License, or (at your option) any
later version.
*/

////////////////////////////////////
//          RemoteXY include library          //
////////////////////////////////////

// RemoteXY select connection mode and include library
#define REMOTEXY_MODE__ESP8266WIFI_LIB_POINT
#include <ESP8266WiFi.h>

#include <RemoteXY.h>
```

```
// RemoteXY connection settings
#define REMOTEXY_WIFI_SSID "SmartPaddle"
#define REMOTEXY_WIFI_PASSWORD "12345678"
#define REMOTEXY_SERVER_PORT 6377

// RemoteXY configurate
#pragma pack(push, 1)
uint8_t RemoteXY_CONF[] = // 42 bytes
{
255,6,0,0,0,35,0,16,62,1,1,1,35,46,22,40,8,31,100,97,
115,104,0,1,1,6,46,22,40,8,31,100,111,116,0,8,0,17,9,28
,
28,16 };

// this structure defines all the variables and events
of your control interface
struct {

// input variables
uint8_t button_1; // =1 if button pressed, else =0
uint8_t button_2; // =1 if button pressed, else =0
float compass_1; // from 0 to 359.999

// other variable
uint8_t connect_flag; // =1 if wire connected, else
=0

} RemoteXY;
#pragma pack(pop)

////////////////////////////////////
```

```
//          END RemoteXY include          //  
////////////////////////////////////  
  
#define DASH_BUTTON 2  
#define DOT_BUTTON 3  
  
void setup()  
{  
  RemoteXY_Init ();  
  
  pinMode (DASH_BUTTON, OUTPUT);  
  pinMode (DOT_BUTTON, OUTPUT);  
  
  // TODO you setup code  
  
}  
  
void loop()  
{  
  RemoteXY_Handler ();  
  
  digitalWrite(DASH_BUTTON, (RemoteXY.button_1==0)?  
LOW:HIGH);  
  digitalWrite(DOT_BUTTON, (RemoteXY.button_2==0)?  
LOW:HIGH);  
  
  // TODO you loop code  
  // use the RemoteXY structure for data transfer  
  // do not call delay(), use instead RemoteXY_delay()  
  
}
```